

平成22年度事業評価シート(ハード事業)

NO. 24

評価2 ハード

1 事業名等(Plan 1)

事業名	歴史的環境保全整備事業・横丁整備事業						
所属名	基盤整備部	都市整備課	公園・住宅グループ				
第七次総合計画	政策 3「すみよさ」のあるまちをめざして	分野 2 景観	基本施策 1 潤いとおちつきをもたらす美しい景観を形成する	施策 2 あらたな景観の創出			
予算科目	7	4	7	快適環境整備費	74720	歴史的環境保全整備	事業費
				費			事業
				費			事業
根拠条例・実施要綱・担当部門計画等	高山市歴史的風致維持向上計画						
事業の実施主体	○ 市		市以外→				
事業の実施方法	○ 直営		指定管理	業務委託	団体等補助	その他→	

2 事業の目的・概要(Plan 2)

目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

目的	誰のために(対象)	横丁、散策路沿いに面している住民や、通行に利用する歩行者 横丁、散策路、遊歩道を利用して、文化財や観光スポット等を巡る市民や観光客	受益者数	人
目的	対象をどういう状態にしたいのか(意図)	市民や観光客が伝統的な生活感や歴史的な景観に触れながらまちを歩くことができるようにし、歴史的風致の維持向上を図るとともに、まちの活性化に繋げる。		
概要	事業の実施手法、手順	点在する歴史的な文化財等を有機的に結ぶため、横丁や遊歩道等を周辺景観に配慮した色彩や構造物で整備を行い、また適切な案内施設を設置することで面的な整備を行う。		
概要	事業始期・終期	始期： 17 年度から	終期： 26 年度まで	設定なし
今年度の改善・改革ポイント	前年度の評価結果、指示事項等を踏まえ記入			

3 事業費の推移・結果(Do)

区分		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
総合計画計画額(当初)		30,000	30,000	36,000	36,000	36,000
総合計画計画額(計画額)		66,000	30,000	36,000	36,000	36,000
財源	事業費	36,000	86,000	36,000		
	(計画・予算・見込・決算額)					
	国庫支出金	12,000	30,665	18,500		
	決算・見込	12,300	19,034			
	県支出金					
	決算・見込					
	地方債					
	決算・見込					
	受益者負担					
	決算・見込					
その他						
繰入						
決算・見込						
()						
決算・見込						
一般財源						
決算・見込	24,000	55,335	17,500			
	18,191	62,415				
H17国勢調査 96,231人 32,174世帯 ※コスト→行政活動の単位当たり経費算出、変動を経年比較により、効率性評価						
受益者負担率(受益者負担/事業費) 単位 %		-	-			
市民1人当たりコスト(事業費/H17人口) 単位 円/人		317	846			
1世帯当たりコスト(事業費/H17世帯) 単位 円/世帯		948	2,532			
受益者1人当たりコスト(事業費/指標) 単位 円/人						
↓ その他(空欄にコスト指標名記入、事業費をベースとして単位当たりコストを算出) 単位 円/m						

(成果面)

活動・成果指標	活動指標	指標名 歴史的環境保全整備事業(東山遊歩道、江名子川沿い散策路、横丁整備)実施延長							単位	m
		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度		
活動	目標値	-	-	440	590	590	330		↑	
	実績値	370	1,810							
	達成率	-	-	0	0	0	0			
成果	目標値	-	-							
	実績値									
	達成率	-	-							

3 事業費の推移・結果(Do)

前年度までの実績(累計)	対象・手段	高山市歴史的維持向上計画に基づき、江名子川沿い散策路、東山遊歩道、横丁整備を実施
	事業費	111,940 千円 (内容) 江名子川沿い散策路整備 千円 東山遊歩道整備等 千円 その他 千円
	受益者負担	千円 (内容)
本年度	対象・手段	昨年度に引き続き、江名子川沿い散策路整備、東山遊歩道案内施設整備を実施
	事業費	36,000 千円 (内容) 江名子川沿い散策路整備 千円 東山遊歩道案内施設整備 千円 その他 千円
	受益者負担	千円 (内容)

4 分析・評価(Check)

①事業の目的評価(事業の目的・概要に対する妥当性から事業の必要性を評価)

(現状及び判定理由) 高山市歴史的風致維持向上計画の認定により、優先度が高くなる。

判定	目的評価
A:非常に高い	A
B:高い	
C:低い	
D:非常に低い	

②コスト面評価(事業の推移、コスト指標の結果からコスト面を評価)

該当項目「1」入力(注 平成20年度から平成22年度第一四半期までの推移から判断)

減少	維持	増加	1
----	----	----	---

(判定理由) 歴史的風致維持向上計画による予算額が増額される。

③成果面評価(活動指標・成果指標から成果面を評価)

該当項目「1」入力(注 平成20年度から平成22年度第一四半期までの推移から判断)

拡大	維持	1	減少
----	----	---	----

(判定理由) 計画に基づき実施

③成果面

項目	②コスト面		
③成果面	増加	維持	減少
	拡大	○	
	維持		
減少			

コスト・成果ポジション

F

第4水準

一次評価 主管課

評価区分

IV

判断の理由及び課題問題点
コスト面の増加は事業量が増えたからである。事業内容から考えて、利用者の意識から成果を評価する指標が必要である。

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第1水準」 → I 「良い」 良好な水準を維持

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第2水準」 → II 「やや良い」 「I」の水準に向けた改善が必要

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第3水準」 → III 「普通」 「II」の水準に向けた改善が必要

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第4水準」 → IV 「やや良くない」 「III」の水準に向けた改善が必要

目的評価「C・D」もしくはコスト・成果「第5水準」 → V 「良くない」 「IV」の水準に向けた改善もしくは事業の休止、廃止などの検討が必要

5 今後の方向性(Action)

評価結果に対する改善提案 (下記チェック)

計画どおり 改善・継続 終期設定 休止 廃止 完了

高山市歴史的風致維持向上計画に基づき事業を実施する。

次年度実施方針

歴史的風致維持向上計画に基づき、江名子川沿い散策路、東山遊歩道案内施設整備を行い、早期に整備効果を上げる。

総合評価

コスト	成果	評価区分
高	高	III

「II」以上の水準に向けた改善が必要

本事業の実施により、点在する歴史的な文化財等と結び、新たな観光資源としての利用者の増加が期待できるとともに景観の創出を図ることができる。横丁整備計画の見直しにより整備効果の高い路線や優先度の整理を行い、計画的に事業を実施するとともに、案内施設の整備等により、より多くのひとの往来と出会いの場所となるよう事業を推進する必要がある。